

# 隣女集

夏

さみだれにきえぬうぶねのかがり火や

かつらのかはのほたるなるらん

蛍

よはの月およばぬ谷のこがくれに

みゆるひかりはほたるなりけり

水辺螢

おほ井川ゐせきをこゆるかがり火や

つぶねにあらぬほたるなるらん

山路蛩

行きくらす山ぢはるかにかげみせて  
さとまでおくれよはの夏むし

水辺蛩

おほ井川ゐせきをこゆるかがり火や  
つぶねにあらぬほたるなるらん

海辺蛩

よととも<sup>に</sup>焼きもすさめぬいさりびや  
なみまにすだくほたるなるらん

みなと<sup>いり</sup>の舟のかがりやすらはで  
あしま<sup>を行</sup>くやほたるなるらん

古庭蛩

いにしへはふみみし庭のあととへば  
ふるき軒端にすだく夏むし

蛩歌中に

すむ人のおもひあるよとみせがほに  
むぐらの宿にとぶほたるかな

しら玉か露かなにぞとたどるまに  
きえかへりつつ飛ぶほたるかな

歌合し侍りしに、月前蛩

月はなほ心づくしの木の間にも  
さはらぬかげやほたるなるらん

江螢

難波江の玉ものひかりあらわれて

波のうへにもとぶほたるかな

こぎかへるたなし舟のいさり火や

同じ入江にもゆる夏むし

浦螢

身をてらすほかりはみねどわかの浦に

螢あつめてとしはへにけり

螢歌中に

煙たつおもひとぞみる夏虫の

もえてみだるるふじのなるさは

はるる夜のあしまの水ぬかげ見えて

波のそこにもとぶほたるかな

歌合し侍りしに、月前蛩

月はなお心づくしの木の間にも

さはらぬかげやほたるなるらん

江蛩

難波江の玉ものひかりあらわれて

波のうへにもとぶほたるかな

こぎかへるたななし舟のいさり火や

同じ入江にもゆる夏むし

浦蛩

身をてらすひかりはみねどわかの浦に  
蛩あつめてとしはへにけり

蛩歌中に

煙たつおもひとぞみる夏虫の  
もえてみだるるふじのなるさわ

はるる夜のあしまの水にかげ見えて  
波のそこにもとぶほたるかな

山路蛩

行きくらす山ぢはるかにかげみせて  
ちとまでおくれよはの夏むし

水辺蛩

おほ井川ゐせきをこゆるかがり火や

つぶねにあらぬほたるなるらん

海辺蛩

よととも焼きもすさめぬいさりびや

なみまにすだくほたるなるらん

みなといりのを舟のかがりやすらはで

あしまを行くやほたるなるらん

古庭蛩

いにしへはふみみし庭のあとへば

ふるき軒端にすだく夏むし

蛩歌中に

すむ人のおもひあるよとみせがほに

むぐらの宿にとぶほたるかな

しら玉か露かなにぞとたどるまに

きえかへりつつ飛ぶほたるかな

思

せみはもえ蛩はなかず我のみや

ひとつにかねてとしのへぬらむ